

33:14 「見よ。その日が来る。・・主の御告げ。・・その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみのことばを成就する。

33:15 その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を芽生えさせる。彼はこの国に公義と正義を行なう。

33:16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの町は、『主は私たちの正義』と名づけられる。」

33:17 まことに主はこう仰せられる。「ダビデには、イスラエルの家の王座に着く人が絶えることはない。

33:18 またレビ人の祭司たちにも、わたしの前で全焼のいけにえをささげ、穀物のささげ物を焼き、いつもいけにえをささげる人が絶えることはない。」

33:19 エレミヤに次のような主のことばがあった。

33:20 「主はこう仰せられる。もし、あなたがたが、屋と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約とを破ることができ、屋と夜とが定まった時に来ないようにすることができるなら、

33:21 わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、彼には、その王座に着く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちとのわたしの契約も破られよう。

33:22 天の万象が数えきれず、海の砂が量れないように、わたしは、わたしのしもべダビデの子孫と、わたしに仕えるレビ人とをふやす。」

33:23 エレミヤに次のような主のことばが

あった。

33:24 「あなたは、この民が、『主は選んだ二つの部族を退けた。』と言って話しているの知らないのか。彼らはわたしの民を、もはや一つの民ではないと見なして侮っている。」

33:25 主はこう仰せられる。「もしわたしが、昼と夜とに契約を結ばず、天と地との諸法則をわたしが定めなかったのなら、

33:26 わたしは、ヤコブの子孫と、わたしのしもべダビデの子孫とを退け、その子孫の中から、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫を治める者を選ばないようなこともあろう。しかし、わたしは彼らの捕われ人を帰らせ、彼らをあわれむ。」

「正義の若枝」また「彼は…」というのは、メシヤを表していることが分かります。最終的にはそれは主イエスのことです。単に助けてくれるというだけでなく、「正義」をもたらす方です。このように、主からの助けを願うということは、主の正義が行われることをも同時に願うべきであることを知りましょう。私たちも自分のための救いを願うときには、同時に主の義なる御心を実現するように求める必要があります。

19節からは自然界の法則の確かさを述べて、主の約束の確かさを明言しています。なぜなら自然界も同じ主が造られたからです。あらゆることから主の全能の力を感じて、その主からの回復と祝福の確かさに信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

